

「挑戦と希望の地域支援・地域支援における他機関との連携」に 関わったことの振り返りと気づき

相談支援事業所 相談支援専門員 井手春華

「精神障がいの方は、社会を変革していく存在である」という小林さんのことばに感銘を受け、語ルシストの会に参加し、今回初めてイベントに参加させていただきました。

私は相談支援員として障がいを抱え生活している方と福祉サービスをつなぐ役割を担っています。

現在、福祉サービスを利用する方のサービス利用計画書を作成している中で、施設に入所している方に関わることは少なく自宅で生活をしている利用者のサービス計画書の作成が中心です。

その生活に訪問看護や訪問介護のサービスは欠かすことができません。今回、各訪問看護事業所の支援の様子を動画で見る事ができ、実際には計画書に表す事の出来ない、利用者の不安や孤独、生きづらさに真摯に寄り添いながら支援している事が分かりました。

また、動画を拝見し利用者だけでなく、家族全体として支援することで利用者の本当の安心感につなげているのだと、学びました。

まったく福祉や医療とつながりのない生活をしている方は、ニュースや 24 時間テレビ等で障がいのある方のことを見聞きすることはあっても、地域での実際の支援の様子を知る事はすくないのではないかと思います。

テレビはより多くの方に必要な情報を伝える事はできますが、画面越しだとどこか他人事のように感じやすい面もあると思います。

宮崎に暮らす人々に、地域の課題について身近に感じてもらうためにも、今回のようなイベントを継続していくことが、真に自分たち地域の課題だと気づく重要な機会になるのだと考えます。

だからこそ、嶋田市議がお話された『どんな人もみんな地域で暮らしている』という視点は地域づくりを進めるなかで、とても重要だと改めて学ぶことができました。

障がいがある方が地域で暮らす上で課題は多いのですが、目に見えない障がいを抱える、精神障がいのある方が暮らしやすい街は、どんな方も暮らしやすい街になるだろうということは、訪問看護事業所の取り組みを拝見し明らかになりました。

それは、障がいのある方にやさしいまなざしで寄り添ってくれる人がいる街です。そのような寄り添いをしている事業所が沢山あることを宮崎の人々が誇りに感じる事ができる活動に、これからも関わらせてもらえたら幸せだなと思います。

そして精神障がい者は地域の変革者だといく意識が当たり前になる様、私も自分の役割を通して伝えていきたいと思います。